

# 見守る

# 心 つなぐ 心



「業者の人に、今日、垣根を移動してもらおうようお願いしているか?」「んだね、そうしてもらおうか」。梅雨の晴れ間、東部地区の末廣町(下花沢1丁目)に住む佐藤さんのお宅を訪ねると、軒先で佐藤さんと石田しづ子さんが、工事業者と話し合っていました。

石田さんは、この末廣町を担当する民生委員・児童委員です。町内には約150世帯の人が暮らしています。そのうち石田さんは、高齢者の一人暮らし家庭など、約20世帯を定期的に訪問し、生活の相談にのっています。

「佐藤さんのお宅には、高



齢者世帯とのことで訪問させていただいていました」。3年前に夫を亡くした佐藤さんは、85歳になる現在、自宅で一人暮らしをしています。「市内に息子夫婦もおり、何かあれば手伝ってもらっています。が、仕事もあつて忙しいので、頻繁に頼むことは気が引けます」と佐藤さんは話します。石田さんは、そんな佐藤さんの気持ちや生活状況を考え、市が実施する※愛の一声事業や※あんしん電話事業の利用を勧めました。さらに、昨年末に佐藤さんが手を骨折した際、石田さんは地域包括支援センターの職員と連携し、生

民生委員・児童委員 鈴木 忠一 さん(大字長手)

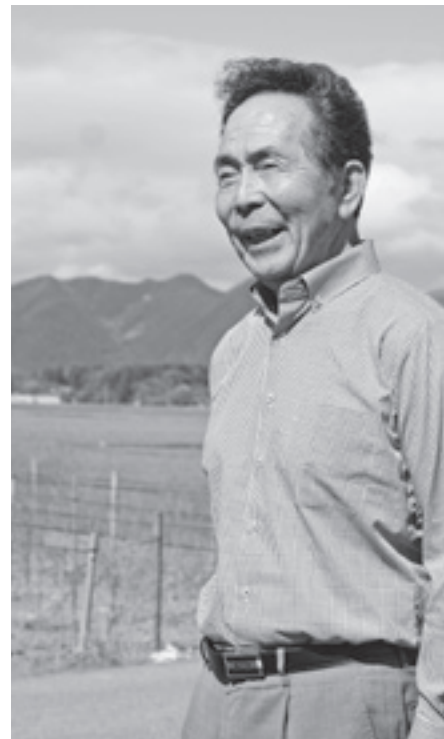
## 地域の実情を把握し、住民に安心を届ける

現在、市内には198人の民生委員・児童委員が活動しており、私も大字長手にある3地域を平成16年から担当しています。

民生委員・児童委員の仕事は、まず地域の実情を知ることから始まります。各家庭を訪問しながら、どこにどのような人が住んでいるのかを把握します。その上で、高齢者の一人暮らし家庭などを定期的に訪問し、相談や困り事などを聞きながら、行政などの窓口につなぐことを役割としています。

さらに、日々の安否確認も私たちの大切な役割です。東日本大震災の時は、体の不自由な高齢者世帯を訪問し、異常がないか確認しました。これから暑くなる季節は熱中症の危険があるため、訪問回数を増やすなどの工夫もしています。

相談者の生活が改善したり相談者から感謝の言葉を掛けられたりすると、民生委員・児童委員になって良かったと感じます。皆さんが安心して生活できるよう、できる限りの支援をしますので、さ細なことも私たちに相談してほしいと思います。



民生委員・児童委員とは？

民生委員は、厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員です。地域住民の立場から、住民の身近な相談相手となり、困っている人を行政や専門機関へつなぐ橋渡し役として活動しています。創設から昨年で100年の歴史を持つ制度です。また、全ての民生委員は児童委員も兼ねています。

どんな人がなっているの？

地域の実情をよく知り、福祉活動やボランティア活動などに理解と熱意があるなどの要件を満たす人が民生委員・児童委員に選ばれます。また、ボランティアとして活動するため、報酬はありません。なお、任期は3年です（再任も可）。

相談したい時はどうすればいいの？

地域の民生委員・児童委員、主任児童委員へ気軽にご相談ください。民生委員・児童委員、主任児童委員が分からない場合は、社会福祉課にご連絡ください。

■問合せ／

社会福祉課総務企画担当 ☎ 22-5111

活援助員や除雪援助員による支援を促したと話します。石田さんに民生委員の役割を聞きました。「各家庭を訪ね、体調の具合や世間話から変わったことや不安なことがないかを伺います。地域での『明るい挨拶』『声掛け』『見守り』『支え合い』などの活動も、安心して生活できる要因だと思います。私たちは相談者にとってどんなサービスや支援が必要かを考え、専門機関につなぐ役割も担っています。さらに、石田さんは声掛けの大切さを語ります。「体調が優れない高齢者への声掛けは、『お元気ですか』ではなく



石田 しづ子 さん  
(下花沢1丁目)

[Profile] 養護老人ホームに勤めていた平成25年に民生委員・児童委員になる。現在2期目。

愛の一声事業：高齢者宅などを訪問し、乳酸飲料等を支給する事業

あんしん電話事業：単身高齢者などの家庭に緊急通報機器を設置する事業

『お変わりありませんか』と、心のプレッシャーにならない挨拶を心掛けています。佐藤さんはそんな石田さんを信頼しています。「歳を重ねるに連れ、一人で生活するところが大変に感じるようになりました。石田さんが優しく話し掛けてくれることで、友達のように様々な相談をすることができ、幸せに思います。」

最後に石田さんは言います。「訪問を通して、皆さんと笑顔で言葉のキャッチボールができればと思います。皆さんは私より人生の大先輩なので、学ぶことや教えていただくことがたくさんあります。かえって私が元気をいただき活動につながるパワーになっています。何よりも皆さんの笑顔が一番うれしいです。」

Interview

主任児童委員 わたなべ おくじ 渡部 奥次 さん (窪田町窪田)

地域で子どもたちの成長を見守りたい

私は平成6年から窪田地区の主任児童委員を務めており、市内では26人の主任児童委員が活動しています。

児童委員は子どもたちが元気に安心して暮らせるよう、子育てや育児の相談などを行うことを主な役割としており、民生委員と兼務しています。そのうち私たち主任児童委員は、児童を専門に担当しており、各地域の児童委員から寄せられた情報を共有しながら、学校や保育施設などと地域の橋渡し役として活動しています。

子どもたちの成長には、貧困など家庭内の問題が影響を与える場合が少なくありません。そのため、学校に出向いて先生方から話を聞いたり、地域で見守り活動をしたりしながら、情報を集めるようにしています。また、虐待やネグレクト（育児放棄）などが疑われる場合は、児童相談所や警察などに通報することもあります。

私たちは、保護者や学校と共に子どもたちの成長を支援していきたいと考えています。秘密は守りますので、一人で抱え込まずに相談してほしいと思います。

